

射出成形ノズル改良に力

工作機械2台秋にも導入

高機能製品試作、拡販めざす

カワダ精工

樹脂成形加工のカワダ精工(本社岐阜県大野町瀬古408の2、河田剛社長、電話05855・34・2055)は、自社開発の射出成形用ノズル「ミキシングノズル」の改良に力を入れる。岐阜県中小企業団体中央会を通じ、中小企業庁から補助金を採択。今秋にも工作機械2台を導入し、製品の試作能力を強化する。より多様な樹脂材料に対応できる構造に改良する計画だ。機能性を高めた新製品をプラスチック成形メーカーなどに売り込む。

(大垣・菊地治滋)



河田 剛社長

ミキシングノズルは、樹脂材料を混ぜ合わせるために、射出成形機の最終部分に装着する機器。樹脂材料の混練性(混ぜ合わせ効果)を高めるために、欠かせない。

同社は、プラスチック成形加工の売り上げが大半を占める。樹脂加工で培った経験をもとに、既存の射出成形機に後付けできるミキシングノズルを約8年前に開発した。

さらに岐阜大学と共同で、ポリカーボネートなど高粘度樹脂にも対応できる新型のミキシングノズルを3年前に製品化した。三つに分解可能で、保守や点検などメンテナンス性に優れる。既存の射出成形機に後付け可能なため、導入コストを低減できる。

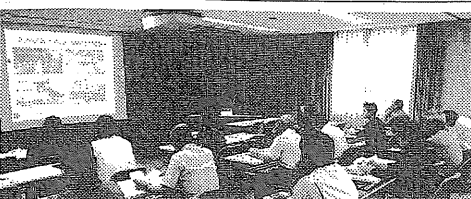
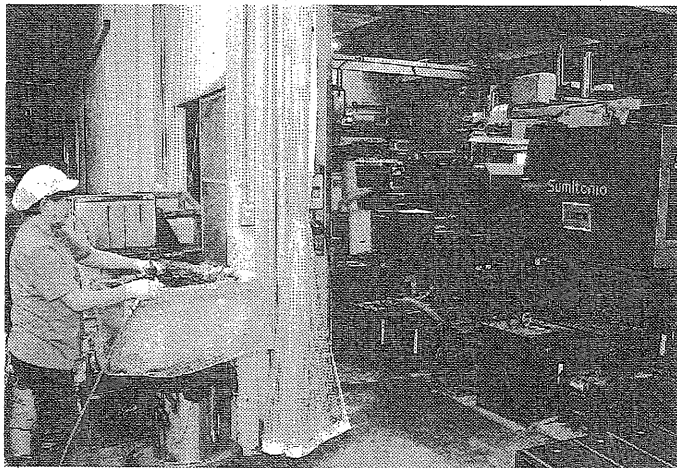
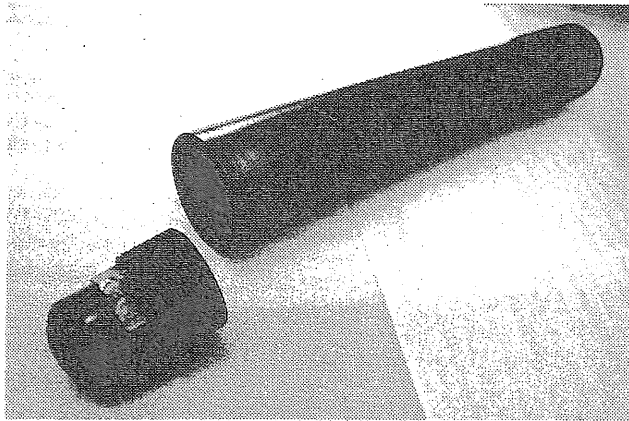
その後も製品改良を行っているが、協力メーカーに製造委託しており、多様な材料や粘度に応じた試作研究は満足にできていなかった。今回、補助金を採択を受け、旋盤とフライス盤の計2台の工作機械を導入。総投資額は1700万円を見込む。研究用の設備を導入することで、試作品づくりを強化する。

ミキシングノズルの売上高構成比は約1割。改良製品の投入で、今後は3割程度まで引き上げる方針だ。

河田社長は「さまざまな樹脂材料の使用ケースなどをテストし、より良い製品構造を探りたい」と話している。

樹脂成形加工が主力の本社工場(岐阜県大野町)

現行のミキシングノズル



経営計画
セミナーを
TA(

法博会

【岐阜】TA(

博会計事務所は

岐阜市の岐阜グ

ルで「経営計画

セミナー」を開催し

全国から約20人

後継者が参加し

キャッシュユ

決済でセミ

十六銀と可

【可児】十六

商工会議所はこ

児市内で「キャ

推進セミナー」

写真。同所会